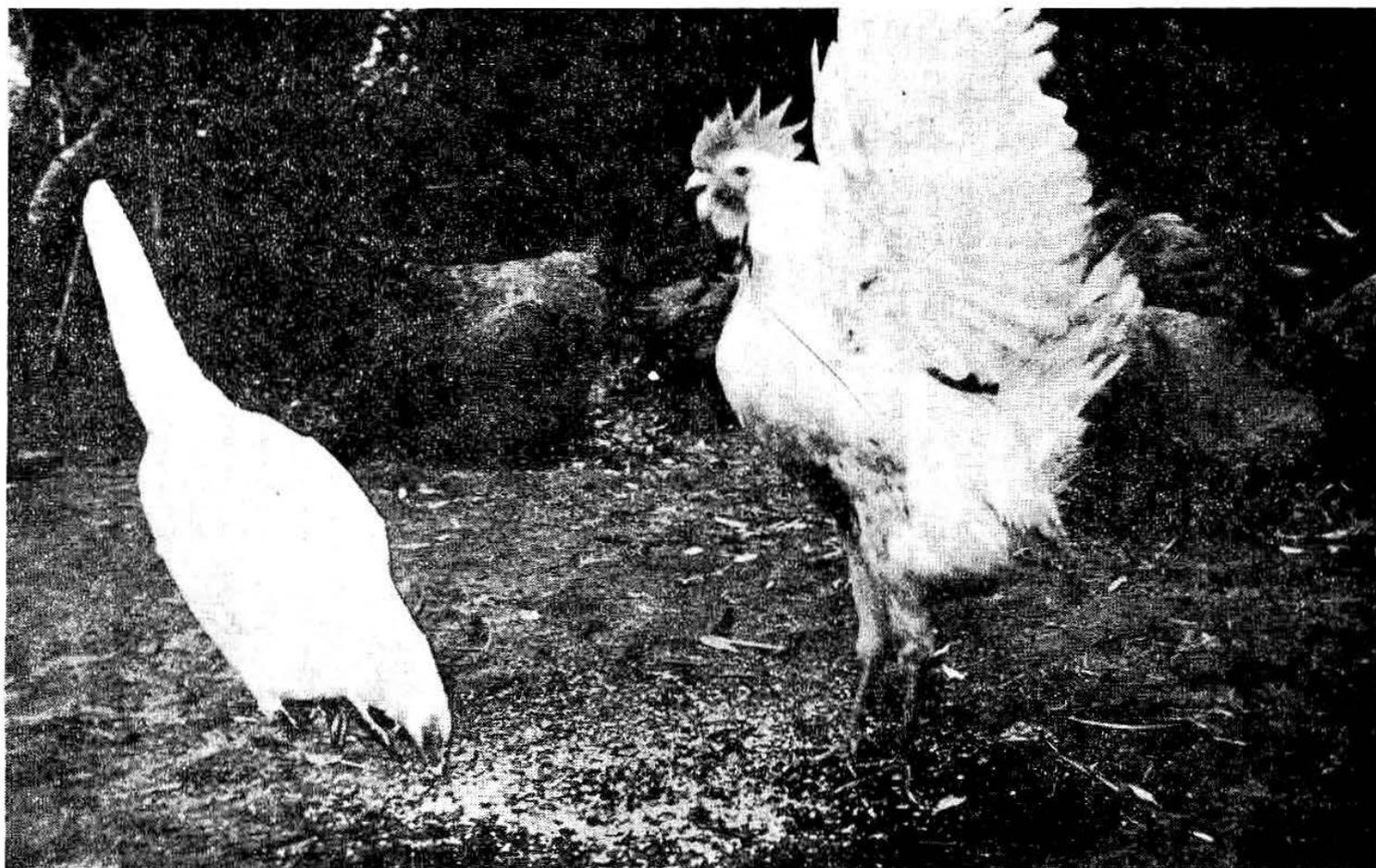


# あ さ ひ



昭和四十四年

己酉(つちのと・とり)の年

## 雑感

明治維新、近代日本創業の偉大なスタート、それからちようど百年の昭和四十三年は、歴史の一頁として過ぎていった。

祖国日本の反省、民族意識の再認識、だが幾多の内外の重要問題をかかえて、新しい昭和四十四年の新春を迎えた。

昭和四十四年は、日本紀元で二千六百二十九年、そして西紀千九百六十九年にあたる。

国際社会の一員としての日本であるからには、西紀も必要であろう。しかし、祖国日本には日本の紀元はある。そして年号もある。西洋紀元オンリーは、世のいうところの進歩人というにはあたらない。日本人であって、国際社会の一員であることを銘記すべきではなからうか。

ことし、昭和四十四年は己酉(つちのと・とり)の年である。東洋において、わたしたちの遠い祖先から受けつがれた年をかぞえる方法であったのだ。それが正しく受けつがれてきている。

日本神代の昔、天の岩屋におかくれになった、皇祖、天照大神(あまてらすおおみかみ)をその岩屋からひき出そうとして、多くの神々がいるいろの試みをした中に、ながなぎどり(にわとり)をもつてきて鳴かせた故事に、にわとりなるものが見えている。

化石でわかる鳥の元祖は一億三千万年の昔、今日の鳥の出現は、第三紀、約五千万年の昔、爬虫類から進化したものであることはわかるが、どういう過程を経たかはつきりしないという。

鶏鳴(にわとりの暁を告げる鳴き声)は、わたしたちの生活にはなつかしいものである。その雄どりは、なかなか飼われていない。田園風景の一角が正に消滅しようとしている。

親どりが先か、卵が先かの通俗論議がなされているとき、月世界の旅行が成功しようとしている。科学の力は、はたして天地創造の神秘を、いつの日か解決することができるだろうか。

明治百一年、新日本建設、しかも祖国日本の真の姿を顕現する新しい門出の年、また二十一世紀へと進んでいく素地をつくっていく年のスタートでもある。

(M・K記)



# 年頭の辞

朝日町長 中川 雅一

昭和四十四年の元旦を迎え、町民各位と一堂に会して新しい年をお祝いでございますのは、まことによろこばしいこととあります。

すぎゆく時の

速いこと、歴史の傾斜の急なること、今日ほどきびしい時代はないと思われませんが、このときにあたり、各位ともども、過ぎ越しかたを省みながらほう洋としておしせまる将来へ向かつてのエネルギーをかきたてるためのよい機会であることに元旦の意義を見出し得るものと思えます。

今日、我々をとりまく世界情勢は、古い時代の空間的距離を克服して、時間的、経済的あるいは政治的に刻々と短縮されつつあり、重要な出来事は、もはや海洋の彼方や大陸の果ての奇聞ではあり得ず、何らかの形で我々の日常生活にすら影響を及ぼすようになってきているのであります。

平和と繁栄を甘受している我が国の現状は、その諸条件の多くを国際的な関連に依存しているものでありまして、固有の實力と盤石の基礎の上に立っているものとは必ずしもいい得ないのであります。したがって成長の早い木ほどその根は弱いということがいえると思っております。

しかも恵まれた国際状況を当然の権利のように思う錯覚は、国内的にもまた、望ましい諸条件は当然に他人の力で準備されるべきものであるように思う錯覚と相通するものがあります。

吉田富山県知事が掲げておられる創造と勤労の精神の振興はまことに適切であり、我々の指標として尊重しなければならぬと思えます。

一方、平和と繁栄の裏に潜在する不安と退廃の影は次第にその濃さを増してきており、犯罪や交通事故の激増、公害や、いわゆる大学問題など、きびしい社会現象となつてあらわれてきております。これらのことからは、すべて国民のひとりひとりの身にふりかかる事象であり、他人事として看過することのできない切実な問題としてうけとめなければならぬと思えます。

ひるがえつて、我が朝日町の過去をみてみますと、合併以来すでに十五年を迎えようとしております。昭和二十九年に生まれた赤ちゃんも、今日はまさに中学教育を終えようとしており、親のひ護を離れ、自己の人生の方向を選ぼうとする岐路に立ち、激しい胎動をいだいているはずであります。我が朝日町も先輩各位の営々たる辛苦のたまものとして、

着実に基礎が形成されてまいりました。これをひきつぎ、これを伸ばすべき我々の責務はまことに大きいものがあります。財政の硬直化、地方自治の危機というような基本的な壁に直面しながらも、朝日町の将来の繁栄に向かつて歩を進めなければなりません。

昨年私は町政の三原則をかけたが、

第一の人間尊重につきましては、赤川保育所の新築をおこなったこと、境地区の健康づくりモデル運動にいささかの効果があがりつつあること、泊病院の新築落成など、すべて町民各位の熱心なご協力と相まつて所期の経過をたどることができました。ことに結核予防事業の優良町村として全国特別表彰をうけ、特に皇后陛下からお言葉をいただく光栄に浴しましたことは婦人会の長年にわたるご尽力のたまものにはかなりません。本年も町民の保健、体育の振興に努力したいと思えます。

第二の社会開発につきましては、道路の整備改良を重点としてきました。が、県道、町道にわたりかなりの進捗をよくみることができました。ひきつづきこの面の事業を推進していく考えであります。また、城山一帯が県定公園に指定されたことにもない、本丸付近の一部の施設や城山林道が完成いたしますので、町民各位の健康と自然愛護の場として充実したいと考えております。

第三の経済開発につきましては、かねて希望しておりました山村振興地域の指定をうける手はずが整いましたので、本年を期して第一年度に

入ることになります。これを主軸として農林漁業の基盤整備を促進する考えであります。この面につきましても、とくに関係地域の団結した受入れ態勢が是非とも必要なのであります。各人の物心両面にわたるご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、昭和四十三年度は朝日町としても未曾有の豊作が記録され、まことに喜ばしいことではあります。しかしながら、いわゆる食管制度や米価問題など、農業の今後、とくに水田単作地帯である我が町にとりましては容易ならざる課題が待ちうけていることを忘れてはならないと思えます。

また、去る昭和四十二年春、関西電力株式会社から出願のあった朝日電力計画についてであります。その後、ご報告に値する展開をみていないことはまことに遺憾であります。現在、県の段階において総合的な流域調査が進められておりますが、隣接市町の住民各層が、電源開発は地域的に決して不利でないのみならず、国家的にも有意義な計画であることを冷静に考慮し、利害得失をよく検討され、納得のゆく解決へ

の道を開かれることを期待するとともに、我が町としても強い関心を持続してこれに処していかねければならないと信じております。

なお、過日の新聞のとおり、多年の懸案でありました北陸自動車道の黒部一長岡間の基本計画案が公開されました。このなかで連絡道路が朝日町付近に設置されることが明らかにされております。着工までにはまだ相当の年月はありますが、遠い将来にわたる地域開発にとって、大きい要素となることが予測される問題であるだけに、町としても十分銘記しておくことが必要と思えます。

年頭にあたり、各位にはいろいろとご所懐もあろうかと思えますが、私といたしましては、変転きわまりない社会の動きのなかで、一つ一つの契機をとらえて、それを逸することなく町発展の基本とすべく、今後とも町民各位の一段のご教示とご協力をとくにお願い申し上げます。

いささかお辞をつらねましたが、おわりに各位のご健康とご清栄をこころから祈念申し上げて年頭のあいさつといたします。

## 交通安全に明るい話題

交通事故が多発して、毎日数知れない犠牲者があつたを絶えず暗い話題の多いとき……ここに明るい話題をお知らせします。

このたび、黒東自動車協会、黒東モータース及び泊タクシーの三社から、町の交通安全教育に役立ててほしいと教育器材(10万円相当)の数々の寄贈をいただきました。

三社からは、ことしの7月にも同じ寄贈をいただいております。さっそく町及び町交通対策協議会や教育機関と協議のうえ、交通安全に役立たせていただき三社の誠意に十分おこたえたいと思えます。

(教育委員会)



# 輝く新年を迎えて

## 朝日町議会議長上島栄作

輝かしい昭和四十四年の年頭にあたり、町議会を代表してつづしんでごあいさつを申しあげます。

昨年中は電源開発のことがらをはじめ、町政の諸般について、町民各位の深いご理解と並々ならぬご協力を賜わり、深く感謝申し上げます。

そのうちでも、電源開発についてはことのほか重要であり、問題を新年にひきつづくことになりましたが、町民各位の一層のご支援と近隣市町はじめ、関係方面のご協力を賜わらしてまいりたいと存じます。

わが町の将来は、なんといいても、農業をはじめ、既存産業の成長をはかることはもとよりのことであり、今日の社会情勢の中にあつて、より高く、より大きく躍進するためには、やはりすぐれた天与の条件をいかに生かし得るかということだと考えられます。

す。また、このことは、国家的にもきわめて重要なことであります。

幸いにして、これも、国家的に数少ない計画の一つであった、いわゆるスーパー林道の開設は、本年から着手の第一歩をふみ出すこととなり、また城山一帯の観光開発は、道路開発等によつて大きく浮かび上がるものと存じます。

これらのことをはじめとして、山村振興の指定事業の開発、農林漁業改善事業の実施、都市計画の整備、泊病院の経営等、そのほか町政上の諸問題は実に多いものがありますが、これらの推進のためには、まず、適応した財政力が必要であります。

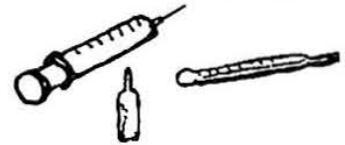
しかしながら、今日の地方財政の仕組みは依然として困難なものがあり、その運営は実に大切であります。

新しい昭和四十四年は希望の年であるとともに、また多くの課題をもつ年であります。

町議会といたしましては、この際、きびしい現状を直視し、内外の動向を考え、そして近隣市町をはじめ関係方面との協調のもとに、福祉の向上と町政の進展のため、心気一新して当たりたい所存であります。

ここに、町民各位の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、いよいよご繁栄をお祈り申し上げる次第であります。

# 健康保険 子宮ガンと胃ガン



## 子宮ガンと胃ガン

昨年の九月八日、富山市で北陸医学会総会があり、特別講演として、東京女子医大教授、中山博士の講演がありました。博士は、ご存じの方も多しと思ひますが、胃ガンの研究では世界的権威のある方で、当町外科医、橋先生の恩師でもあります。講演は大変わかりやすく、門外漢の私のようなものでもよく理解でき、研究の成果には深い感銘を受けました。

論旨は、『胃ガンは必ず直る』ということでした。

しかしそれはどんな胃ガンでもなおるといふことではなく、最新の医療器械を駆使し、熟練した医師の診断による早期発見が第一の条件であり、ある程度進めば、いかに名医であつても患者の命を救うことはできません。

さて、それなら、婦人のガンを代表する子宮ガンはどうかといふますと、胃ガンと同様、早期発見、早期治療が第一であることはいうまでもありません。

しかし診断や治療の面で子宮ガンの方が都合のいい点が多いので、以下比較しながら述べたいと思ひます。

す。

診断について 胃と同じように、子宮も体内の臓器の一つですが、ガンのできやすい場所は、陰鏡というもの(鳥のくちばしの形をしたもの)を入れれば肉眼でも容易に見ることができ、これは、最新のレントゲンや胃カメラを使つても、診断を決定するには長い経験と熟練が必要とされている胃ガンの診察のときとは大変な違いであります。

ガンの進行について ガンは大切な隣りの臓器をこわして進んでゆくものですが、胃は厚さ二、三ミリの薄い風船のようなものであり、逆に子宮は一センチ近い厚い肉壁でできています。従つて、それを破つてガンが集むには、子宮の方が胃袋の何倍も時間がかかるということになります。

以上二つの点から、子宮ガンの方が胃ガンより診断が容易であり、進み方も遅いので、手遅れになる割合も少ないと考えられます。

医学の進歩した現在でも、ごく初期のガンでなければ完全に直ること

はむずかしいとされていきます。それにもかかわらず、『胃ガンは必ず直る』と断言された中山博士の自信の裏には、いかにしたら胃ガンを早期に見出すかという医師の情熱と学問のきびしさを痛感しました。私自身、子宮ガンの末期の患者さんを診察し、なんと説明してあげたいのかと困ることがときどきあります。さきほど比較したように、子宮ガンは胃ガンと違つて、診断も容易であり、進み方も遅いのですから、早くさえ発見されれば、完全に直ることは間違いありません。

ガンの始まりは何も自覚症状のないのが普通です。従つてガンの早期発見は、皆さん各自の自覚によるガン検診の励行や、専門医を訪れ、早期診断を受けることが第一であります。また他方、私達医師としても保健教育の普及を図り、実地医家としての勉強を怠らず、地域社会医療に奉仕する使命と責任を痛感して、一層努力したいと思つていきます。

草野 和夫  
産婦人科医師

昭和四十三年分給与所得の源泉徴収票を必ず添付してください。(民生課)

### 一月の人権身上相談

一、日時 一月二十日(月)  
午後一時から三時まで  
一、場所 朝日町職工会館 (総務課)

### 巡回交通事故相談所の開設

日時 一月二十三日午前十時から午後三時まで  
場所 中央公民館 (総務課)



## お知らせ 保育所入所 申込みについて

昭和四十四年四月から、お子様の保育所入所を希望される方は、一月十四日から二十五日までの間に、希望される保育所へ申し込んでください。申込書は各保育所にあります。なお、給与所得者は、申込書に、

特集

# 明治100年を語る座談会

## 明治五年に学制発布 義務教育八年で授業料五十銭

△その二▽

司会

さて、明治五

年には、いよいよ学制発布がなされていきますが、ちょっとしらべてみたところ、育英小学校の前は広明小学校というなまえがついていましたね。

私達子供の頃、最初松林寺か妙輪寺で、寺小屋式な、泊小学校の前身のようなものが開かれた、ときいてるんですが、山田先生、こうい

ったことについていろいろおもしろい話があると思うんですが。

山田 そうですね、私は小学校は泊へ出ました。昔は尋常四年、高等科四年でありましたが、当時山崎にはそれがなかつたもので

すから、山崎には学校がなかつたんです。泊はこういような番号になってるわけですが、創設当時は妙輪寺で、生徒六十名、先生二名であつたとい

つています。その年の十二月に、四間に二十五間の学校が建てられたわけですが、収納米の蔵をもつてきて建てたもので、それが十二月八日だと記録されています。

それから、当時、上等八級下等八級と申しまして、上等というのは高等科、下等というのは尋常科にあたるわけで、それぞれ半年で一級ずつ進む仕組みで、八カ年の義務教育を

したわけですね。山田 ええ、通つたものです。そのときはいまの家じゃなくて羽入からでした。

山岡 はあ、羽入だったか。だから舟見の管轄とはちがうんだ。

小川 お話の最中ですが、ちょうど山田先生が泊小学校におられた頃に、昭和八年ですか、六十周年記念のいろ

んな行事があつて、そのとき九里愛雄さんをはじめお年より方と、当時

学校へ入られた方の座談会をやっておられるんです。その座談会の記録を拝見したんですが、それによりま

す。山岡 「第六学区第九中学区五十五小学区泊小学校」となっているんですね。全国を八大学区三十二中学区二百十小学区に分けていたんですが、泊はこういような番号になってい

るわけですね。創設当時は妙輪寺で、生徒六十名、先生二名であつたとい

つています。その年の十二月に、四間に二十五間の学校が建てられたわけですが、収納米の蔵をもつてきて建てたもので、それが十二月八日だと記録されています。

それから、当時、上等八級下等八級と申しまして、上等というのは高等科、下等というのは尋常科にあたるわけで、それぞれ半年で一級ずつ進む仕組みで、八カ年の義務教育をしたわけですね。

明治十六年に九鬼隆一という方が視察にこられたとき三条さんに揮毫をたのんだ、それがいまある育英小学校の額でございます。

話はあとさきになりましたが、五箇庄小学校は明治十六年にできております。

そこで、笹川小学校五十三名、泊が六十名という生徒数から考えますと、当時学校に入って学んだ生徒は割合に少なかったようですね。

いろいろ文書を見ますと、明治五、六年には小学校は一万八千ほどできていますが、そういうことで大体学校の創設は明治五、六年に一斉にできて、あとはほつほつできていくわけ

です。先ほど修業年限の話がでていましたが、明治五年には上等小学校が四学年、下等が四年、明治十四年

になって高等科二年、中等科三年、初等科三年となり、十九年になって高等科四年、尋常科四年で、明治三十三年にこんどは四年が義務となつて

います。最初、明治五年の学制で、義務教育八年をしいたわけですが、それが十二年に廃止になり、同年九月に改正教育令というのが公布になって、

先の八カ年の義務教育というのが廃止になっていきます。尋常科四年、高等科四年というのは明治四十年まで

続いています。それから四十年の年に小学校令が改正になりました、こ

んども尋常科六年、高等科二年ということになりました、大体この前後にガラスの入った近代的な学校が

きたわけですね。なお、現在議会議場になつていま

泊小学校の建物は、明治十九年五

月六日に、五千三百四十円で建てられたものです。その三年あとの明治二十二年一月十六日に大雪のため二階が落ちて学校がつぶれています。

南保、山崎あたりでは、明治四十年代にそれぞれ学校を建てております。

その後昭和十六年に国民学校となつて、高等科二年の外に特修科ができて、初等科六年となり、昭和二十二年に六・三制になったわけですね。

大体こういつた歴史ですが、はじめはどちらかというと、寺小屋に毛の生えた程度のもので、話によりまして、ちゃんまげ姿で学校へきて、先生にちゃんまげを切れと言われて頭をかかえて逃げていたという話も聞いております。(笑い)

なお、最初は授業料をとっていたのですが、当時一カ月の授業料が五十銭で、米一斗以上に値するわけで貧しい者にとっては大変きびしい学令であつたわけですね。そのため学校打ちこわし事件も全国にいくつあつたようですが、明治十二年になつて学制が変わり、明治三十三年によりやく授業料をとつてはならぬという触れがでてくるようになります。

そういうことで、義務教育という観念ができて、国家が教育を保障するようになったのは明治三十三年ということになりました。

学校の歴史の中で、創設期と、もうひとつは昭和二十年の終戦直後の変革が一番大きなもので、この当時の中学校の建設については、各町村どれくらい苦勞されたか銘記すべきものがあります。

# 学校建築は県下一

## 洋館校舎第一号と 鉄筋校舎第一号

司会

やはり、終戦を第二のご一新と言われたように、学制の関係でも、学制発布と学校教育法というものは同じ性質のものであるというように考えられると思うんです。

ところで、記録によりますと、現在も残っている昔の育英小学校の校舎は、ああいう洋風建築の校舎は当時伏木と高岡と泊だけだったそうなんです。

小川

現在泊高等学校になっております元泊小学校の鉄筋校舎も、富山県では岩瀬についてのものです。

山田

いや、泊が一番です。

小川

ああ、そうですね。

山田

泊が富山県のトップを切ってやったわけで、岩瀬は泊にならなくてやったものなんです。

小川

いずれにせよ、昭和の初期にできたこの学校は、泊の教育熱というものを象徴した建物であったわけなんです。

加藤

あれを建てた野田仙之助町長は偉かったと思いますね。あの当時あれだけのものを建てるのは大変なことです。いま富山県で学校をたてるのは、みな鉄筋の三階ですが、これを見てつくっているようなものですよ。(笑い)

よ。(笑い)

小川

当時の校長は小沢篤太郎さんですね。篤太郎さんは鉄筋校舎を建てるために、一つの策を用いたと言えども、一つ、先生達に対して、雪が降

何ですが、先生達に対して、雪が降ったら授業をやめて屋根へ上がれと言われた、これほど危険な学校だといふことを見せるための手段だったと思います。いずれにせよ、そんな話を聞いております。あれは昭和二年の年で、何十年ぶりの大雪の

# 盛んだつた新川木綿の生産

## 江戸時代から加賀藩第一の産物

司会

教育に大変熱が入りまして、少し長くなりましたが、少し方向を変えてみたいと思います。

明治八年頃になりますと、産業革命的なものが富山県内にもだんだん及んでまいりまして、記録を見ますと、福野に機械製糸というものがはじめてできていますね。

明治初年におけるこの地方の産業をのぞいてみますと、新川木綿の生産が最も盛んであったことが記されております。文久、寛政から明治初年にかけて、泊町だけでも年産二十数万反の新川木綿が産出されております。

野島

野島さんにばかりおねがいします。当時の中心産業であった新川木綿について何かお話がありませんか。

野島

深い研究はしておりませんが、新川というものはご承知のとおり富山

ときのことでした。

司会

明治十二年に教育令が施行された頃の先生の月給はどれくらいだったんでしょうかね。

小川

ちょっとわかりませんね。

加藤

昔の古いことはよくわかりませんが、明治四十年頃は師範学校卒業者は十六円、一年終了で尋常科正教員になった者は月給十一円でした。

市から境までをいうわけですが、その中でも、下新川、黒部、魚津が最も栄えたわけです。徳川の中頃頃からだんだん興ったと記録が残っております。天保年間(一、八三〇年頃)になりますと百万反もできたといわれています。私は百万反といってもどれくらいかわかりませんが、加賀藩第一の産物になったという事です。幕末になりますと、境の関所を通って、信州のあたりから多くの商人が買いつけにやってきたそうです。

おそらく、朝日町は黒部市に次いで産出量も多く、明治十年位まで栄えたんじゃないかと思えます。明治十一年頃になりますと、そろそろ洋式の機械が入ってきて、さすがの新川木綿もこれに太刀うちができなくなって、二十年頃からおちぶれていったんじゃないかと思えます。

記録には、中川さんあたりがそれ

で財をなされたというようなことがのっておりますが、そのほかに現在町の方々の中で、そういった業務にたずさわっておられた方が残っておりますか。

加藤

くわしいことはよくわかりませんが、私は野中の生まれですが、当時野中方面でも泊町でも、はたおり機のない家はいくらかいのものでした。

司会

新川木綿はほとんど女子労働力によってなされたものらしいですね。湊さん、どうです。新川木綿と染色業とは直接関係があったと思うんですが……

湊

私はオブザーバーで出席しているんですが……染色の方でも今になっていろいろ新川木綿について研究しています。新川木綿は手織りが特徴で、機械織りだと筋が出ないんです。

# 江戸、信州、越後に

## 新川木綿の支店

司会

結城(ゆうき)つむぎのように筋があるところに味があるんですね。

記録によりますと、小沢さんなどは明治初年頃に東京あたりに支店を出したり、越後の方にもだいたい支店のようなのをあちこち出しておられたようですね。森先生、こういったことについて何か……

森

よくわかりませんが、まあ、地方地方に「こうやさ」というものがあったもんです。染物屋だと思えますが、それが新川木綿に関係していた

ものじゃないですか。

司会

泊が一番大きく新川木綿を扱っていたのは小沢屋だということなんです。どの小沢屋さんでしょうか。

野島

朝日町史料にものっているんですが、小沢屋さんというのはいくさんあったんですね。しかし、どの小沢屋というものは指定してないんです。ただ、泊町史料などから考えると、小沢三千石といわれた与三左衛門の家じゃないかと思えますね。

司会

いずれにしましても、当時はそのい発展ぶりを示していたようですね。

安政四年に江戸の商人が新潟県で盗難にあいまして、それを調べてみたら八千何百両かの金を泊の方へ送っているんですね。当時の八千何百両というのは大変な金で、そういう大きな新川木綿の取引がなされていたということですね。

ところが機械製糸が入ってきて、手織ではとても手間が合わないという事で、だんだん衰微していったようです。

それから同じく産業のことですが、境関所史によりますと、境では製塩が相当行なわれていたようなんです。それは明治になってからどういうふうになったんですか。

野島

人権費ばかりかかってパツとしたんです。明治二十年頃になると、そろそろ赤字がでてきて、やめてしまったんじゃないかと思えます。

# 地曳網にわいた浜

## 不振の一途をたどる沿岸漁業

司会

朝日町全域という範囲から当時の産業をながめてみて、たとえば漁業方面も相当盛んだったと思うんですが、宮崎のタラ、ワカメ、ヒダラなんかも相当古くからやっていたらうと思いますし、漁業全般についても昔から行なわれていると思うんですが、当時、宮崎とか境あたりの漁業の状況はどんな程度のものであったんでしょうか。

水島

境の漁業は、最初地曳網とか手ぐりでやっていたんです。境地区には七組あったもので、大体一組について十五〜十六人が水夫(かこ)として従事していたものです。

水島

その期間は、大体九月から十月十五日までは自由操業になっていて、十月十五日以降十二月五日までは網をかける場所を割り当てたもので、ですから勝手に他の割り当ての所へ漁撈していくことは許されません。

水島

地曳がすんでから手ぐり網、今でいう底曳網を冬にやっていました。その後鯛網、定置網と変せんしてきていますが、地曳網の頃は非常に熱心にやっていました。

水島

また、鯛網も最初は腹曳だったんですが、段々発達して発動機でやるようになり、しかも人手もだんだん少なくなり、いつしか消えていってしまったんです。

水島

宮崎は、昔はタラ釣り専門で、タ

ラを売って歩くのとヒダラを作るのが商売だったわけですよ。

私がいくつの年だったか忘れませんが、漁場の問題で宮崎と市振が大変なけんかをしたことがあります。

水島

漁業法が何か制定されたときじゃなかったですか。

水島

いつだったか、大正の末頃だったと思いますが……

水島

宮崎村史なんかにも記録されているんですけど、市振側についている弁護士にだまされてやったとか書いてあったように思います。

水島

まるで戦争さながらだったですよ。

水島

タラ漁に関する場所の問題でですよ。

水島

ええ、宮崎は境をこえて市振沖までの区域を持っていたらしいんですよ。そういう関係から何か摩擦がおきたんですよ。

水島

昔はこの辺の海岸は相当魚がとれたものとみえて、泊が元屋敷にあつたときも、主な商売は漁業だったんですよ。

水島

明治になりましたも、田町(三浦町)の浜にも漁師の村があつたし、

大屋、草野あたり、それから町では上町の私の家から西は全部漁師だったんです。

当時はどういうに魚を県外へ出したかという、交通が大変不便だったもので、それから、ちょうど今頃になりますと、ブリ、シイラを塩につめて、主に信州へ出したもので、そしてその量も大変なものだったので。

### メキシコ行きがきっかけ

#### 赤川の発動機船

北海道では「赤川衆」で

水島

いまの漁業の不振は明治の中頃からじゃないですかね。

私の聞いた話では、名前は忘れませんが、赤川の人で、はじめて北海道へ出漁して、そこを根城にしたのは明治二十六年だとかで、その頃沿岸漁業が不振になったので、その最初に行った人に続いてほとんど北海道へ行くようになったらしいです。

機械化になった動機については、北海道へたくさん出漁していたが、一時国際関係で漁区の争いがおこり、自由に漁撈ができなくなつたらしいんですよ。それでやはり向こうで

水島

の漁業も不振になってきたんですね。だからせつかく大きい船をもつてもやりにくくなつたので、中には

水島

ラッコ漁に転向した人もいたということですよ。これにこちらの方から行っていたたくさん水夫たちがいたんですが、これも国際関係の問題で禁漁になり、仕事がなくなつたんですよ。当時釜石とかこの人で田宮と

水島

いう方が、たまたま赤川から働きに

水島

行ってた漁師十五人をつれてメキシコへ行こうということになり、大正三年三月五日に帆船で出発し、その年の四月二十日に向こうに着いているんですが、これはもちろん密航でしたので、大体向こうへ着ける見通しがついてから、帆柱を折つたり食糧を海へ捨てたりして、漂流しているように見せかけているんですよ。そしてこの人たちはメキシコで二年間千円の契約で貝をとるのに雇われたということですよ。

水島

先日なくなられた金井関次郎さんとか、赤川出身で北海道で大成された人たちがこれに参加しておられるんですよ。

そして、二年間に千円もらつて、アメリカをまわつて帰朝したというんですが、金井さんの話では、そのときにはじめて向こうで発動機船を見たということですよ。将来の漁業は

水島

汽笛一声大屋をあとに……海上交通の拠点だった大屋の浜

水島

汽船で直江津へ  
出てから東京へ

水島

漁業の発展の話もつきませんが、当時の海上交通はどの程度のものであったでしょうね。きくとところにより

水島

ますと、現在の大屋の浜あたりが上陸地点で、岩瀬から魚津、あるいは新川沿岸のあちこちを経て大屋あたりへあがる、それから直江津から江戸へ出るための要路になっていたんですよ。

水島

小沢しげさん、昔大屋の浜が船で

こんなのでやらなければだめだということを感じ、帰ってきてその話をされたのが、当時の村長で西田彦衛さんのお父さんや助役の西井さんたちで、この方々が力を入れて、発動機漁船購入の資金を出してあげられたらしいんですよ。

これが、赤川の発動機船が、後に釧路、根室を中心にして二百隻からこの数になったもとの、向こうへ行けば、越中の出漁者は全部「赤川衆」というなままで通ずるようになったということですよ。

水島

加藤

金井さんたちが外国から帰つてこられて発動機船をつくられ、これが六十数隻にもなつたときに、県の役人がこられて、日本の漁村のうち、たつた百戸ほどの部落で、これだけの発動機船をもっているところはほかにないと言われたそうです。

水島

あちこちへ行くために大変発展したように聞いているんですけど、子供の頃のお話がありませんか。

水島

汽船会社の支店が大屋にありましたね。私のおばが東京からくるときには汽船に乗ってきましたが、そのとき私は、はしけにのつて沖の汽船のところまで迎えにいったりしたんです。やはり、東京からくるときは、直江津から汽船にのつてこなければならなかったわけですよ。

水島

内島さん、何かそういう話で……

水島

……

水島

……

水島

……

内島

私もそういったことをよくおぼえております。北海道から、にしん、たらかすなど運搬してきたのもおぼえています。そういうときは私もよく浜までいったものです。小沢さんあなたもよく一緒に行ったもんですね。汽船を送って行ったときなんか、海岸でハンカチを振って別れを惜しんだものです。情がありましたよね。

たもんです。それから、当時大屋には、北海道へ出す米とワラ工品を入れる倉庫がいくつも建っていましたね。

内島

私もはしけで行って汽船にのり、直江津まで行って、そこから汽車にのって東京へ行ったことがあります。

司会

それは何年頃ですか。

### 大屋から北海道へ

#### 米ワラ工品の出荷

内島

そうですね、明治四〇年頃だったでしょうか。

司会

私も汽船のことはよく記憶にありますね。よく「ポーツ」っていう汽笛がきこえました。

大嘗

大嘗

いや、まだ富山まででした。

山田

それはおそらく直江津へ行く船たろうと思います。ちょうどきまつておひるごろ「ポーツ」となるので、私たちは「ひるま蒸気」と呼んでい

ようやく魚津まできました。

## 「ペトペト」(駅馬車)で魚津まで

### 自動車が入ったのは大正年間

司会

陸上交通の話に入りたいと思います。魚津まで汽車がついた頃、その連絡として駅馬車があったように

草野

きいてるんですが……

馬車ですね。「ペトペト」といっ

ていた。(笑い)

小沢

魚津に汽車がきたのは大正天皇のおいでになった頃じゃないですか。

大嘗

いや、大正天皇はまだ皇太子のとき、明治四十二年かに魚津まできて

おいでになっていきます。小沢 私ら、学校から歩いて魚津までおがみに行きましたよ。

加藤

私は先生を連れて迎えに行きました。(笑い)

草野

私は入学試験を受けに、父親と人力車二台で魚津の中学まで行きました。

司会

た。

当時魚津まで馬車賃はどれくらい

だったんですか。

山岡

十銭かな。

## 茶の間で

### 自転車のけいこ

司会

北陸線が開通するまでの、朝日町を中心とする交通機関はどういうものだったでしょうか。

森

明治七・八年頃から荷車が利用されていきます。十年頃から人力車が入っていますね。明治十一年の統計では、下新川に五・六台しかなかったそうです。それから三輪車というのが明治二十二年から二十三年にかけてはやっていきますね。

大嘗

自転車は明治三十年頃に入ります。そのとき柚木さんあたりが茶の間で自転車のけいこをやったと聞いています。(笑い)

荷馬車は明治十五・六年にはじめて

てできまして、これは鉄道工事によ

く利用されたものらしいです。

それから明治三十四年頃に乗合馬

車が出現し、自動車になったのは大

正年間じゃないですか。現在「黒東

自動車」というのがありますね。こ

れはその時分の名残りの名前じゃな

いかと思います。大たいタクシーと

いうような名で言っています……

草野

当時黒東自動車はアメリカのフォードとシボレーを二台か三台入れて近江賢治君がやったものです。

私が二十七、八才のとき、開業してまもないときにあすこにポロ自動

車がきたんです。(笑い)破れてト

タンでつぎをした自動車でしたよ。

(笑い)

その後四年程して私が自動車を買

ったんですが、いま自動車を運転し

ている者で私より年上の者はいない

のです。運転して四十五年もたちま

すからね。

大嘗

運転免許泊の第一号ですね。

伊東

島端さんも早かったですね。

司会

町の温泉ができたのは大正三年ですね。その頃に、駅からか、どこからか、馬車でお客を温泉まで運んでいたのをおぼえています……。

大平鉄

馬車の停留所はいまの大蔵肉店のところにあります。舟見、入善、市振の方へ箱馬車が通っていたことをおぼえています。

## 人力車はぜいたく品

大嘗

草野先生は魚津まで人力車で行かれたとおっしゃったが、その頃魚津まで人力車で行けるのは草野先生ぐらいだったでしょうね。(笑い)

一般の人は馬車ですね。それも金

が高いからみな歩いたものですよ。

大平鉄

私ら子供の頃に、柚木さんにはじめて自転車が入ったんですが、当時自転車屋というのは魚津にしかなく、所へ乗り方を教えるに……

で、私は正座して茶の間でけいこ

ぶりをしていたものです。(笑い)

広い茶の間でしてね、正座してみ

いるとあとでお手間がもらえたんで

す。(笑い)

司会

やはり皆さんが体験された話です。とずい分花が咲きますね。

内島

恐れいりますが、私の子供の頃の思い出をちょっと……私が尋常四年

の頃、小沢篤太郎さんが奉職してお

られたとき、よく唱歌を教えてもら

ったもので、その思い出をいつも年

寄りのお友だちとお寄りすると語る

んですが、その当時の思い出の歌を

うたわせていただきたいと思いま

す。(拍手)小沢さん、いつしよに

うたいましょう。

海と山との泊町

生まれし我ら心せよ

有磯の海は富の海

わしらは山は 智いの山

鷲平山は 智いの山

朝夕通う学校の

北と南は海と山

いざ咲くらなん富の球

いざ求めなん智いの花

磯の荒波けちらして

みねの白雪踏みこえて

ただひとすじにつとめなん

遠き昔の親のため (拍手)

大嘗

だれの作詞ですか。

広川

作詞作曲とも小沢篤太郎さんです

ね。

司会

山田先生、この歌に記憶がござい

ますか。

内島

山田さん、お久しぶりでございま

す。

山田

よくうたいましたね(笑い)

(次号へ続く)

# 県定公園内観光施設完成!!

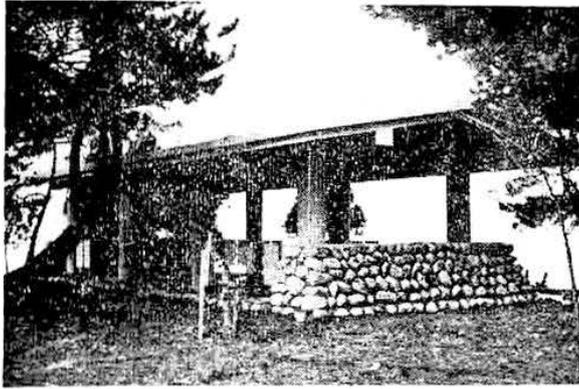
## あずまや風の休憩所 鉄平石の公衆便所

昨年十月着工した城山頂上の休憩所と公衆便所が、十二月二十五日に完成した。

この外に、宮崎から城山に至る遊歩道路の一部である鹿島樹叢一帯の道路整備も既に着手されている。これは延長三三〇米、巾員一、五米で、急な坂道は杉丸大で組まれた階段工、路面には石炭が敷かれ、全線排水管完備されるもので、明年の観光シーズンには一層の来訪客を期待している。

(産業課)

これは、昨年四月城山・宮崎地区一帯が県定公園に指定され、県費補助百万円(総事業費二百五十万円)を受けて行なわれた事業の一つで、休憩所は鉄筋コンクリート平屋建、面積三八、九㎡、あずま屋風の建物に矢止板の手すりをつけ、た昔風のりっぱなもの、また公衆便所は、面積二五、五㎡、鉄筋コンクリートブロック建てで、両側壁に緑色の鉄平石をあしらった豪華なもので、両施設共付近の風致をこわさないよう考慮されている。



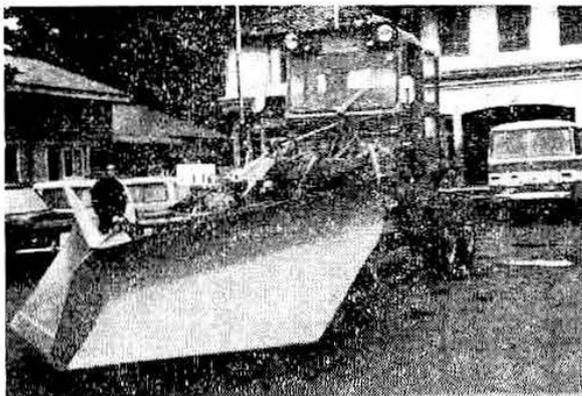
写真V 完成したあずまや風の休憩所

### 道路除雪に協力を

冬期間の交通確保のため、県の除雪計画が定められましたが、朝日町でも県の計画と併行して除雪計画を立てています。

除雪作業の円滑な実施をはかるため、次の点について住民各位のご協力をお願いします。

- ①降雪時は道路区画が不明になるので、道路上の駐車を避け、また路上にはすべての物件を放置しないこと。
- ②機械除雪の不可能な道路または排雪必要な箇所は、関係地区の人力除雪によること。
- ③町内会の協力による除雪作業が行



なわれるときは、土地事情の明る人の誘導を。(建設課)

### 除雪グレーダー購入

朝日町では、このほど、雪寒地域における道路の冬期交通確保のため、小松製GD-30-5M型モーター・グレーダー(除雪装置付)一台を購入し、冬期の除雪に万全を期するとともに、積雪期以外は砂利道の維持修繕にも使用し、激増する交通に対処することになりました。

(建設課)

写真上V降雪に備えるグレーダー

### 除雪実施計画の概要

高速除雪……グレーダー、排雪板付トラック、ロータリ一等使用  
 低速除雪……ブルドーザー、ドーザーショベル等使用

作業順序	第一種	第二種	第三種	その他
該当路線名	国道八号線	県道泊停車場線 (旧泊局前)・入善線 (旧泊局前)・宇奈月線 (上小川橋から小川橋)	県道宮崎・入善線 (宮崎から旧泊局前) 県道北羽入・入善線 (小川橋から舟川新) 県道山崎・泊線 (上小川橋から小川元湯) 県道岩崎・前沢線 (岩崎から下今江)	町道 右記以外の県道
作業目標	二車線巾員の確保と常時交通を完全に確保する	二車線巾員の確保を原則とするが、状況によっては二車線で待避所を設置する	一車線巾員とし必要な待避所を設ける 状況によっては一時交通不能になるも止むを得ない	同右
作業の標準	高速除雪を昼夜の別なく常時実施	高速除雪を原則とするが状況によっては低速除雪実施	降雪状況に応じて実施 一)三種路線の交通確保 二)降雪状況に応じて国、県道の交通確保 三)降雪量が多い路線より実施	

編集兼発行 朝日町役場  
 印刷所 高田印刷  
 送料 六六円  
 定価 六六円  
 郵便番号 九三九一〇七